

令和6年度
事業報告書

社会福祉法人 札幌厚生会
救護施設 札幌市あけぼの荘

令和6年度事業報告書 目次

総 括	1
I. 利用者支援の充実	3
1. 自己実現と個別支援体制の充実	
2. 人権を尊重した支援の推進	
3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進	
4. 利用者主体の生活支援	
5. 生きがい活動の充実	
6. 作業活動の充実	
7. 地域活動の推進	
8. ホームレス緊急入所事業の推進	
9. 一時入所受入れの推進	
II. 健康支援と感染予防	8
1. 健康状態の把握と健康相談の充実	
2. 健康診断の実施	
3. 回診の実施	
4. 服薬の管理と誤薬防止	
5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防	
6. 感染症の予防	
7. 病院受診・通院・入退院の対応	
8. 緊急時の対応	
別紙 月別通院状況	
III. 食の向上と栄養管理	11
1. 栄養の管理	
2. 特別食の対応	
3. 豊かな食事の提供	
4. 非常時の対応	
5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底	
6. 給食単価と平均栄養所要量	
別紙 給食状況調	
IV. 施設経営の新たな取り組みと機能強化	15
1. 新たな時代に沿った安定的施設経営に向けた取り組み	
2. 運営体制の適正化	
3. 職員の専門性の向上	
4. 苦情解決に向けた取り組み	
5. 地域との連携	
6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み	
V. 施設の安全管理と環境整備	17
1. 施設の防災管理	
2. 施設設備の修繕・保守・点検	
3. 施設内の清掃・美化	
別 表	18
別表1 入所状況・ 別表2 職員配置状況	

令和6年度事業報告

■総括

はじめに

令和6年度においては、長年の課題となっていた居室環境の改善に向けた改修工事が完了した。各居室の床面積が拡大し個々のプライバシーが配慮され、住環境が飛躍的に向上した。この新たな環境のもと、快適で充実した生活がスタートした。

利用者様のプライバシーをより一層確保するため、利用者様ごとに居室にカーテンを新たに設置し、個別のプライバシーを享受できる環境が整った。その結果として、居室内で余暇時間を過ごす利用者様が増加し、日々の生活で感じるストレスが軽減されることに大きく貢献した。その事により居室内でのトラブルを大幅に減少させる効果をもたらし、利用者様同士の関係性もより円滑になったことにより心身の健康や生活の質の向上に多大な成果を上げる事が出来た。

新規入所者を増やすため、新たに作成したパンフレットを活用して情報発信を強化した。年度当初予定した77名には到達できなかったが74.3名と定員に近い人員を確保し、また事務費基準額の改訂もあり大幅な増収の収支決算とすることが出来た。今後もより多くの利用者様に利用いただける環境を整備していく。

給食提供体制が外部委託となり1年が経過し、その間は試行錯誤を重ねてきた。従来から行われていた行事食や選択食などの提供もこれまで通り継続することができ、利用者様に喜ばれる食事を実現した。今後はさらなる発展を目指し、連携をより強化しながら、食事の質を一層向上させていく。

法人全体として、より良い組織運営を目指し、人事制度の見直しに着手し給与制度について改訂を行った。次年度は人事考課制度の構築を進め、人材育成を重要な柱とし法人理念の実現を図っていく。

■重点目標

1. 居室環境改善に伴う支援の展開

居室の環境が大幅に改善されたことで、利用者様は新しいライフスタイルでの生活を開始した。準個室化が進んだことにより、個人でテレビを所有される利用者様が増加し、自分のペースで快適な時間を過ごせるようになった。利用者様の生活リズムに配慮し、消灯時間や日課の見直しを行い、生活スタイルのさらなる充実を目指した取り組みを検討した。これからもより良い生活環境を提供し、安心して暮らせる場を作り上げていく。

2. 利用者確保に向けた取り組み

居室改修に伴い、新しいパンフレットを作成し、札幌市内における保護実施機関、医療機関、各種相談機関などへの周知活動を積極的に行った。札幌市内に限定せず、

近隣の市町村にも足を運び、救護施設が提供する事業内容について丁寧に説明し、広く周知活動を展開した。その結果、徐々にではあるが問い合わせ件数が増加する傾向が見られるようになった。

緊急的な受け入れを必要とするケースが増加している状況に対応するため、「一時見守り支援事業」を活用し、近隣のアパートを利用して柔軟な支援を行った。また、中・長期的な支援が必要な場合には、施設での生活へと移行する体制を整えるなど、状況に応じた適切な対応を実施し、アパートが満室となっている場合には、施設内の居室を迅速に確保し、緊急的なニーズに応える取り組みを行った。

3. 利用者支援内容の向上

感染対策を徹底した上で外出の促進やレクリエーション活動を実施した。これまでも、利用者様の希望や要望を細やかに汲み取り、それぞれの状態に合った個別支援計画を策定し、それに基づいた支援を提供してきたが、10月より個別支援計画の策定が義務化されたことを契機に、さらなる取り組みの強化を図り、利用者様一人ひとりに寄り添い、その人ならではの自立支援を実践した。地域移行を目指す利用者様に対しては、「居宅生活訓練事業」を積極的に活用し、新たな生活環境へのスムーズな移行を行い、継続的な支援が必要な場合は、他法に基づく各種サービスを利用できるよう取り組み、安心して地域生活を継続できる環境を整え、生活の安定と質の向上に寄与した。

4. 感染症や大規模災害に向けた対策

事業継続計画（BCP）に基づいて見直しを行った結果、現段階ではいくつかの不十分な点が明らかになった。現場での意見や提案を反映し実際の状況を想定したシミュレーション訓練を定期的実施していく。

5. 安全で満足度の高い給食の提供

新しい体制のもと、利用者様の満足度を高めるために、毎月開催される給食会議を通じて意見交換を行い、多様な視点から情報を共有した。今後も課題や要望に関する情報を共有し、質の高い食事を提供することで、さらなる満足感を感じていただけるよう食生活の充実と向上に繋げていく。

6. 職員処遇・人事制度の見直し

人事制度について検討し、特に給与制度については抜本的な改訂を行った。次年度は人事考課制度の構築に向けたトライアルを実施し、制度の効果や課題を検証しながら改善を進め、人材育成を重要な柱としていく事を促した。

1名の実習生を受け入れ、現場での学びの機会を提供するだけでなく、職員自身にも多くの学びや気づきを得る機会が生まれた。今後も積極的に実習生を受け入れていく。

I. 利用者支援の充実

個別支援計画を基とし、希望要望から利用者様が望む生活の実現と、個人の自主性を尊重し、支援し過ぎない生活支援に努めた。

1. 自己実現と個別支援体制の充実

① 個別支援計画実施体制の充実

ケース会議の開催

- ・前回のモニタリングから、実施してきた支援に対しての評価を行い、令和6年度、新たな希望要望の聞取りを行った中で、本人の気持ちに変化がないかを確認し、各部署より専門的な視点から、継続した支援が必要か、または新たな目標に見直さなければならないかを話し合い、利用者様の意向に沿った計画に修正を行いながら今年度も支援に努めてきた。支援目標に関しては、複数立てることが利用者様の負担となってしまうのではないかと考え、優先順位の高いニーズから、より厚い支援となるよう努め、具体的な支援の方法を利用者様にも分かり易い記載方法に気を付けながら作成を行った。

延べ開催回数 72回

2. 人権を尊重した支援の推進

① 生活環境の見直しについて

- ・人権擁護委員会の活動が節目を迎え、居室の改修が終了したことで、新たな生活環境へと変化した。この変化に伴いより快適な生活を実現するため、下半期から毎月の支援会議で生活環境の見直しを議案の一つとして取り入れ検討を重ねた。日課の見直し等より円滑で自由な生活の実現に向けた意見が多数あり、今後は更なる改善に向けた取り組みを進めていく。

検討会開催 4回

3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進

① 札幌市を対象とした「基幹相談窓口」としての機能

- ・市内の相談に関しては、当施設を窓口とすることで他施設と連携しながら受け入れを行ってきたが、当施設が窓口として機能していたかは、把握できなかった。しかしながら市内各区からの依頼に対し、迅速な対応で断らない受け入れが出来た。法人内救護施設と連携したツールを活用することで、的確に受け入れるための案内も出来、受け入れ態勢の調整を行うことができた。

② 施設と地域社会資源との連携強化

- ・今年度は、地域で生活されている方で、支援が必要であるが支援が行き届かず困っている方がいないかに目を向け、地域包括支援センターを訪問し救護施設の役割や支援の仕組みについて説明を行ったことで連携を深めることができた。

③ 生活困窮者自立支援事業の実施（地域公益的事業）

- ・認定就労訓練事業（中間的就労）として保護課からの依頼が無く、訓練実施とは至らなかった。

4. 利用者主体の生活支援

① 支援体制の改善

- ・福祉見聞録導入による情報管理体制の充実
- ・自立された方に対し、常に入浴（シャワー浴）が出来るよう入浴日を設定した。
- ・女性の介助入浴の見直しを行い介助入浴日の曜日を拡充した。

② 意見反映

- ア. 意見交換会（隔月実施）
- イ. 全体集会

10月、1月、3月のみ実施。

③ 自主的活動の促進

- ・各種体操への参加（毎日実施～ラジオ体操、リズム体操）
- ・職員が同行する個別外出支援

買い物	食事	図書館	家族との交流	墓参り	合計
7回	0回	0回	0回	2回	9回

④ 家族等との交流支援

ア. 家族等との交流状況

- ・面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
面会者数	7	3	5	2	4	3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会者数	0	3	2	6	1	5

*延べ面会者数 41名

- ・外出の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外出者数	0	1	1	0	2	3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出者数	1	2	1	0	1	1

*延べ外出者数 13名

- ・外泊の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外泊者数	1	1	3	3	2	1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外泊者数	2	1	2	2	1	0

*延べ外泊者数 19名

イ. 機関紙「みちしば」の家族様への送付

- ・発行回数：年1回
- ・送付部数：31部／1回

5. 生きがい活動の充実

① よかクラブ活動の実施

クラブ名	実施回数	参加延人数	実施内容
書 道	11回	119人	硬筆、毛筆を実施し、出来上がった作品を掲示した。
自 遊	12回	186人	ぬり絵、シャボン玉、七夕飾りつけ、カラオケ、風船バレーを実施した。コロナ過中はカラオケの実施ができず、歌えなかったこともあり、とても人気があった。
手 芸	12回	114人	スクラッチ、刺し子を中心に、グルーガンを使用して季節に合ったリースや造花作りをおこなった。

② レク活動の実施

ア. グループレクの実施

実施日	内 容	参加者	実施日	内 容	参加者
4月24日	出前1班	4名	7月23日	出前レク3班	4名
5月16日	買物レク1班	6名	8月27日	買物レク4班	5名
5月21日	出前6班	4名	9月18日	出前レク4班	4名
5月28日	白い恋人パーク	3名	9月19日	買物レク5班	5名
6月13日	出前レク2班	5名	10月9日	出前レク5班	4名
6月19日	買物レク2班	5名			
7月18日	買物レク3班	5名			

イ. MK マルコシ衣類販売の実施

- ・実施日 1回 6月12日 2回 10月10日
- ・参加者 全員対象

ウ. その他施設行事

実施日	行事名	内 容	備 考
4 月 中 旬	合同カラオケ交流会	コロナ感染後のため中止	
5 月 9 日	第62回開設記念	施設内にて利用者様とご家族様のみで実施した	
7月17日	夏まつり	施設内にて利用者様のみで実施した	
8 月 6 日	七夕まつり	大道芸を施設にお呼びし、観覧した。	
9 月 初 旬	スポーツ交流会	炎天下での実施となるため中止とした。	
9月12日	敬老会	お祝い品を贈呈し、長寿のお祝いを利用者様と共に行った	
12月18日	もちつき	「よかさろん」にて、もちつきを行った	
12月24日	クリスマス会	クリスマス会食を行った	
12月28日	年越し会食	年越しの会食を行った	
1月23日	勉強会	障がい者理解についてDVDで上映した	全員
1月30日	節分の豆まき	年男、年女の方に施設内を回って頂き、豆まきを行った	対象者 10名

6. 作業活動の充実

① 作業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施延べ日数 (日)	8	6	6	8	5	7	7	7	5	4	4	3	70
参加延べ人員 (人)	200	141	133	183	109	166	172	159	113	84	89	67	1616
1日平均参加 人員 (人)	25.0	23.5	22.1	22.8	21.8	26.8	24.5	22.7	22.6	21.0	22.2	22.3	23.0
箸作業実績 (本)	90,000	70,000	51,000	70,000	50,000	80,000	60,000	80,500	40,000	40,000	40,000	30,000	701,500
箸作業金 (円)	12,000	10,500	9,000	10,500	7,500	12,000	9,000	12,075	6,000	6,000	6,000	4,500	105,075
その他作業 実績 (部)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他作業 報奨金 (円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報奨金総額 (円)	12,000	10,500	9,000	10,500	7,500	12,000	9,000	12,075	6,000	6,000	6,000	4,500	105,075

② 作業内容

- ・お弁当用箸セット製作作業

③ 作業報奨金の支給

- ・偶数月に当該月の前2ヶ月分の作業参加回数を集計し、その出席回数と当該月の収益金を基礎とした計算により、作業報奨金を個々に支給した。
- ・令和5年度作業報奨金総額 105,075 円

7. 地域活動の推進

いずれも新型コロナウイルス感染症対策により中止した。

- ① 地域清掃の実施
- ② 地域交流の実施

8. ホームレス緊急入所事業の推進

国の緊急的施策（一時見守り支援事業）により、施設近隣のアパートを3室借り上げ、経路不明者の隔離対応場所として受け入れを行った。

ア. 月別入所者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	2	2	2	1	0	1	2	1	1	1	1	2	16

*平均入所日数 39.6日 最短 1日 最長 147日

イ. 年齢別入所者数

(内訳)	30歳未満 2名 12.5%	30～39歳 4名 25.0%	40～49歳 1名 6.2%	50～59歳 3名 18.7%	60～69歳 4名 25.0%	70歳以上 2名 12.5%
------	----------------------	-----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------

*平均年齢 49.2歳 最年少19歳 最高齢76歳

ウ. 月別退所者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
居 宅 保 護	1	1	1	1	1	1	1	2	1	0	1	0	11
入 院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

9. 一時入所受入れの推進

ア. 一時入所利用者数（一般入所前の体験的入所は除く） 13名

イ. 退所先 居宅 2名 正式入所 11名

Ⅱ. 健康支援と感染予防

利用者様一人ひとりの安心と健康の保持、残存機能の維持を図りながら、嘱託医の指示の下、以下のことを行った。新型コロナ・通年流行のインフルエンザの感染症対策に努めた。

1. 健康状態の把握と健康相談の充実

日常の小さな変化や悩みのサインを見逃さないよう観察を密に行い、利用者様の主体性や意思を尊重した（健康相談「話楽」）支援に努めた。

① 「話楽」の実施

- ・入所の方へ個別に悩みや不安に思うことの聞き取りを行った。

② 延命意思確認の実施

- ・入所の方へ延命希望の有無確認を行った。

また、生活支援記録システムを活用し、医務的記録を職員間で情報共有出来るよう努めた。

2. 健康診断の実施

① 定期検診

検診名	実施日	実施機関名	受診者	要精検者
胃 癌 検 診	4 月 4 日	北海道対がん協会	13名	1名
大 腸 癌 検 診	4 月 4 日	北海道対がん協会	46名	1名
胸 部 検 診	4 月 4 日	北海道対がん協会	33名	0名
子 宮 癌 検 診	2 月 2 7 日	北海道対がん協会	4名	0名
乳 癌 検 診	2 月 2 7 日	北海道対がん協会	6名	0名

※ 要精検者については、嘱託医の指示により再検査を実施した。

② 施設内健康チェック

ア. 体重・血圧測定の実施

- ・毎月 男性・女性別に1回測定実施

イ. 検血・検尿の実施（対象者のみ）

- ・3班に分け年2回実施

③ 入所時健診

必要に応じ適宜実施した。

④ 個別検査

嘱託医、主治医の指示を受け、胸部レントゲン・CT、頭部CT、心電図、胸部・頸部エコー、血液、尿検査を実施した。

3. 回診の実施

回診や通院を受診した。月別患者数は別紙のとおり。

4. 服薬の管理と誤薬防止

自己管理が難しい方（現在54名）については医務管理とし、食事後や就寝時に支援員と連携し服薬確認を行った。また自己管理が出来る方についても、定期的に残薬のチェックを行い服薬の安全に努めた。誤薬の発生を出来るだけ最小限にとどめるべくヒヤリハット委員会を通じ検証を行った。

5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防

ア. ラジオ体操、主に1階の利用者様を対象に参加表カレンダーにスタンプを押し参加率増加に努めた。リズム体操、DVDによる機能体操の実施（身体機能・嚥下機能・認知機能）

- イ. 歯科往診時に必要な方へ義歯装着方法や取り扱い等について指導した。又、義歯の不具合など支援員と連絡を密にとりながら歯科治療につなげた。
- ウ. 昼食前に嚥下体操を行った。

嚥下体操月別実施回数及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実施回数	3回	6回	9回	8回	7回	11回
参加者数(延人数)	40名	89名	169名	140名	126名	200名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施回数	7回	6回	3回	2回	4回	1回
参加者数(延人数)	126名	118名	47名	44名	90名	16名

合計：67回 1205名

6. 感染症の予防

ア. インフルエンザ予防接種の実施

- ・利用者様及び職員を対象に実施した。

イ. 新型コロナ予防接種の実施

- ・65歳以上の希望利用者様に実施した。

ウ. 手洗い・うがいの徹底

- ・日常の手洗い・うがいの徹底のほか、通院等の外出後の手洗い・うがいを徹底するなど、感染症の予防に努めた。
- ・食堂、玄関、各階洗面所に手指消毒剤を設置し、消毒の徹底をした。

エ. 除菌の徹底

- ・施設内の除菌(通年1日2回)を実施した。
- ・換気(午前、午後2回)を全職員で実施した。各居室において利用者様にも協力をしてもらい、昼食時間に合わせ換気を促し実施した。

7. 病院受診・通院・入退院の対応

- ・単独通院出来ない方の通院送迎を行った。(相談員と調整)
- ・通院者の受診に対し通院日の調整を行った。

8. 緊急時の対応

のどづめ、転倒事故による怪我、意識障害などの事態に対し職員全員が初期対応を行えるよう努めた。

- ・「事故発生時の対応」マニュアルを基に新規職員へ説明を行った。

月 別 通 院 状 況

延人員
(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	施設外	13	12	2	7	4	11	10	10	9	11	3	8	100
	施設内	25	18	22	22	23	20	25	3	21	19	22	21	241
精神科	施設外	5	1	1	1	4	2	2	3	3	2	1	1	26
	施設内	15	14	16	14	13	14	14	15	13	13	12	15	168
外科	施設外	2	0	1	0	0	0	3	2	3	2	1	1	15
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	施設外	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	施設内	10	12	7	10	9	5	8	7	8	8	10	9	103
歯科	施設外	1	0	0	1	0	0	0	0	3	6	4	4	19
	施設内	12	8	6	10	13	17	7	5	9	10	19	15	131
婦人科	施設外	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	施設外	4	2	5	3	3	2	7	6	3	4	2	2	43
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	施設外	3	2	1	3	2	2	1	2	0	2	0	4	22
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	施設外	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	3	5	17
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	施設外	0	1	3	0	3	0	0	4	3	1	3	1	19
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
削除	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診者数	施設外	29	19	15	17	17	18	24	29	25	29	17	27	266
	施設内	62	52	51	56	58	56	54	30	51	50	63	60	643
	合 計	91	71	66	73	75	74	78	59	76	79	80	87	909

Ⅲ. 食の向上と栄養管理

今年度より新体制（委託給食）となった為、施設としての方針を継続しつつ、献立や食事の提供方法を見直し、安全に食事を提供できるよう努めた。

また、食材費の高騰により、利用者様の満足度を下げることなく、献立や調理の工夫に努めた。

1. 栄養の管理

身体状況・生活状況を把握し、個々の健康・栄養状況に応じた栄養管理の徹底を図った。また、生活習慣病の予防と重度化防止など、健康の維持・向上に努めた。

- ① 献立表の作成
- ② 個別栄養管理

2. 特別食の対応

利用者様個々の疾病等を考慮し、特別食の対応を行った。

・(マンナン食 ・エネルギー制限食 ～4月まで実施) ・減塩食 ・アレルギー等による代替食

3. 豊かな食事の提供

新体制により献立や調理、食事の提供方法を見直した結果、一部食事内容が変わった。しかしより出来立ての料理を食べていただけるよう適温での提供に努め、行事食の充実を図った。

ア. 選択食

回数	実施日	選択食の内容
1	4月17日	オムライス：醤油ラーメン、いちごクレープ：お汁粉
2	8月28日	唐揚げ丼：ざるラーメン、レモンシャーベット：わらび餅
3	11月19日	ハヤシライス：ハムチーズトースト、りんごタルト：かぼちゃプリン
4	2月18日	焼肉丼：かき揚げ丼、やわらか福もちお汁粉：いちごムース

イ. バイキング食

・料理は簡易食器に小分けに盛り付けし、予めお膳にセットした状態で配膳した。おかわりについては、利用者様は着席したままで、職員がオーダー分の料理を座席まで運んだ。

・実施日 3月12日

・献立 白飯、ポークカレー、スパゲティミートソース、クリームパン、クロワッサン、旨辛チキン、コロッケ、ぶりの照焼、えびつみれ甘酢あん、グラタン、南瓜サラダ、ドームケーキ（キャラメル）、吹雪まんじゅう、ももゼリー、お茶

ウ. お弁当献立

・実施日 ①10月23日

エ. 誕生会

・誕生月の利用者様から料理の希望を聞き、一番希望の多かった料理を毎月の誕生会に提供した。

オ. イベント食

◎開設記念日

・開設記念日に生寿司、焼き鳥、飲み物などの献立で昼食を楽しんでいただいた。

◎ごはんの選べるトッピング

・用意した8種類のトッピングの中から1人2品を選び、ごはんのにのせて食べていただいた。

・実施日 6月12日

・献立 ごはん、茄子のソテーと盛り合わせ、選べるトッピング（たらこ、すじこ、塩辛、味付けのり、ごま昆布、炒り卵、そばろ、梅干し）、冷凍黄桃

◎夏祭り

・夏祭りには、焼きそば、お好み焼き、フランクフルト、カキ氷など出店風の献立で昼食を楽

しんでいただいた。

◎あけぼのオータムフェスト

・『北海道・札幌の食』をテーマとした秋の味覚の祭典オータムフェストにちなみ、普段なかなか口にする事のない道内各地の旬の食材や、ご当地グルメを味わっていただいた。料理や、食材の紹介はもちろん、その土地の概要、名産や特産、出身有名人などについても写真付きで紹介した。

・実施日 ①9月10日 ②9月11日

・献立 ①旭川しょうゆ焼きそば(旭川)、アボカド入り野菜サラダ、りんごゼリー

②十勝芽室コーン炒飯(芽室)、十勝大豆コロッケ、サラダ

カ. クリスマス会食、年越し会食、おせち料理

◎クリスマス会食

・クリスマス会食では、ケチャップライス、ローストチキン、グラタンやテリーヌ、海老フライ、サーモンマリネなどクリスマスらしい内容でのオードブルやケーキを楽しんでいただいた。

◎年越し会食

・12月28日の年越し会食では、お弁当箱を用いて、えびと銀杏のおこわ、ザンギ、海老、旨煮、数の子、金平牛蒡、昆布巻き、栗きんとん、練り切りなど正月らしい料理を楽しんでいただいた。

・大晦日の夕食では、親子丼と年越しそばを楽しんでいただいた。

◎おせち料理

・元旦には朝食に伊達巻や黒豆などおせち五点盛り、昼食にはお赤飯や茶わん蒸し、夕食に刺身盛り合わせを楽しんでいただいた。

キ. 季節食

・季節に合わせ、日本の文化に触れる行事食を提供した。

餅つき(雑煮)

冬至(冬至南瓜)

七草(七草粥)

節分(いなりとりのり巻き)

ひな祭り(ちらし寿司、甘酒)

ク. 祝日食

・祝日には、季節や家庭の温かみを感じていただくため行事食を提供した。

昭和の日(鮭と茸の炊込み御飯)	憲法記念日(赤飯)	みどりの日(筍ごはん)
子供の日(鮭ちらし寿司)	海の日(いなり・のり巻き)	山の日(鶏めし)
敬老の日(赤飯、天ぷら)	秋分の日(きのご御飯)	スポーツの日(栗御飯)
文化の日(さつまいも御飯)	勤労感謝の日(鮭ちらし寿司)	成人の日(鶏めし)
建国記念の日(ひじき御飯)	天皇誕生日(鉄火丼)	春分の日(中華おこわ)

③ 利用者様の意見反映

・給食会議において、居室ごとに取りまとめた食事に対する意見、要望を利用者様の代表から聞き、給食に反映させた。

・嗜好調査の実施 調査時期 令和6年12月
調査対象 利用者様 68名

④ 嗜好品の支給形態

・個々の身体状況、喫食能力によりおやつの内容を2本化し、嚥下困難な方にも安心して食べていただけるよう努めた。(原則毎週木曜日支給)

- ⑤ 利用者様個々の状態に応じた自助食器、自助具の提供
- ・個々の状態に合わせ、自助食器・自助具を提供した。
 - ・自助食器・自助具を使用することで、安定した栄養摂取量の確保と自力摂取をサポートした。

4. 非常時の対応

① 非常食の備蓄

- ・災害時に備え、3日分の非常食を備蓄した。
- ・備蓄品 御飯、野菜ジュース缶、フルーツ缶、飲料水、補助食など90名×3日

② マニュアルの活用

- ・万が一の災害発生時に、対応マニュアルに沿い、適切かつ迅速な対応を行えるよう、内容を更新した。

5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底

- ・調理室内の除菌（1日2回 8:50、15:00に実施）
- ・調理室内の温度測定（1日2回 5:00、18:00に実施）
- ・冷蔵、冷凍庫の温度測定（1日2回 5:00、18:00に実施）
- ・水質検査の実施（1日2回 5:00、18:00に実施）
- ・原材料及び調理済み食品の検査用保存食の保存（2週間分）
- ・加熱調理済み食品の中心温度測定（加熱調理済み食品全てを測定）
- ・栄養士及び調理従事者の検便検査（栄養士 月1回実施、調理従事者 月2回）
- ・調理従事者の個人衛生管理表による健康・衛生チェック（1日1回出勤時に実施）

6. 給食単価と平均栄養所要量

① 給食単価

下記単価により給食を提供した。

給食費	1人1日	1,025円
-----	------	--------

③ 平均栄養所要量

別紙「給食状況調」による基準により給食を提供した。

給食状況調

	kcal	g	g	mg	mg	ビタミン				1人1日当たり 平均金額	食数
	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	A(μg)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)		
令和6年4月	1,794	69.0	57.7	710	9.2	828	1.21	1.48	115	948.27	2,123
令和6年5月	1,783	69.1	51.8	699	9.1	805	1.20	1.42	113	1,040.10	2,284
令和6年6月	1,782	67.0	52.7	633	8.7	817	1.18	1.45	120	941.84	2,171
令和6年7月	1,789	69.5	51.2	685	8.1	812	1.24	1.46	119	977.65	2,256
令和6年8月	1,793	67.5	52.1	681	8.5	835	1.22	1.47	115	988.65	2,296
令和6年9月	1,797	67.0	52.3	688	8.1	897	1.21	1.51	125	1,043.07	2,249
令和6年10月	1,786	67.2	51.5	683	9.0	874	1.21	1.49	122	1,008.25	2,307
令和6年11月	1,780	67.6	50.1	682	8.7	903	1.28	1.52	126	1,016.10	2,211
令和6年12月	1,799	68.9	52.5	691	8.3	825	1.20	1.46	119	1,157.56	2,256
令和7年1月	1,787	66.9	50.8	681	8.3	831	1.41	1.47	118	1,051.72	2,222
令和7年2月	1,805	69.3	50.9	692	8.7	896	1.44	1.49	123	1,071.48	2,091
令和7年3月	1,813	70.0	52.4	6,811	11.6	806	1.65	1.49	117	1,051.56	2,158
合計	21,508	819.0	626.0	14,336	106.3	10,129	15.5	17.7	1,432	12,296	26,624
月平均 1人1日当たり	1,792	68.25	52.17	1,195	8.9	844	1.29	1.48	119	1,025	2,219

IV. 施設経営の新たな取り組みと機能強化

1. 新たな時代に沿った安定的施設経営に向けた取り組み

継続的な施設経営のために、定員以上の利用人員確保を目指した。適切な生活環境の提供に向けた居室改修が完了し、その周知活動を効果的に行ったことにより、今年度においては当初の見込み人員を概ね確保でき、安定した収支状況であったことと、事務費基準額の改定が相まって積立金の増額を図ることができた。

① 利用者充足にむけた救護施設の周知活動

・札幌市外の病院や地域包括支援センターを中心にPR活動を行った。活動効果が見られ、問い合わせや入所相談を数件いただいた。

2. 運営体制の適正化

① 利用者在籍数の変化に合わせ、適切な職員配置と体制再構築

・支援員のチーム再を行い、主任を中心とした新たな体制づくりに着手した。

② BCPの活用

・有機的活用となるよう職員周知を次年度以降も継続していく

③ 記録業務の効率化・情報共有

・生活支援記録システムを活用し、より有効的な情報共有を図った。

④ 定例会議・各種委員会活動の実施

・職員会議、給食会議、支援会議の開催：月1回

・苦情解決委員会：苦情等意見書0件

・ヒヤリハット委員会の開催：検討事項に対して不定期の開催とし、適宜対応した。

ヒヤリハット報告

《年間分類別事象数》

投 薬	転 倒 ・ 転 落	食 事 ・ 誤 嚥	無 断 外 出	設 備	防 災	外 出 先	外 部	忘 れ	勘 違 い	そ の 他	合 計
28	33	20	1							43	125

3. 職員の専門性の向上

① 職員体制と専門性の強化

・加算制度の利用：救護施設職員配置基準に基づく適正な職員配置に加え、加算制度を利用した職員配置を行った。

(相談員1名、介護職員1名、看護師1名)

・外部団体研修会への参加：対面式、及びZOOM、動画配信による各種研修会へ参加した。

・施設内研修の実施：コミュニケーション能力向上研修、伝達研修を企画した。

4. 苦情解決に向けた取り組み

・苦情受付件数 0件～利用者間の関係性、職員に対する不満、職員と利用者様との情報共有に関する要望について

5. 地域との連携

・会議室の開放（開放件数：0回）

- ・福祉除雪事業への参加（当施設出動実績：4回）

6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み

① 広報活動の充実

- ・新規利用に結びつきやすくなるよう、ホームページを一部見直しする予定であったが、現行の表現以上の効果を見出す案がまとまらず、一旦白紙とした。
- ・広報誌「みちしば」の発行
- ・発行部数 95部
- ・配布先 ご家族、関係機関
- ・発行内容

号 数	発行日	発 行 内 容
164号	10月15日	居室改修のお知らせ、夏祭り、七夕まつり、敬老会、施設長挨拶

- ・居室改修後のパンフレットを作製し、病院や地域包括支援センターなどに周知活動を行った。

② 情報公開

- ・ホームページにおいて施設概要、事業報告書及び決算収支状況を開示した。
- ・定期的に更新し日常生活のようす等をお伝えした。

V. 施設の安全管理と環境整備

1. 施設の防災管理

日頃より施設周辺の可燃物の整理整頓等防火活動に努めた。

- ・消防法に基づく総合訓練の実施

実施月日	想定	訓練内容	参加者
5月30日	夜間	総合訓練（消火訓練・避難訓練）	3名
10月22日	夜間	部分訓練（消火訓練・避難訓練）	3名

- ・避難訓練に参加した職員を対象として、消防設備の使用法やスプリンクラー設備について研修を実施した。
- ・緊急時の職員連絡体制をより定着させるため、「らくらく連絡網」を活用した業務連絡を行った。

2. 施設設備の修繕・保守・点検

各種機器の維持管理及び、経年による建物の劣化による修繕を実施した。

今年度においてはエアコンの入替工事や、温水ボイラーの部品交換等を行った。設備の定例保守は以下のとおり行った。

- ・消防用設備の点検（年2回～専門業者／自主点検：毎月）
- ・自家用電気工作物（キュービクル）の点検（毎月～専門業者）
- ・エレベーターの保守点検（毎月～専門業者）
- ・温水ボイラーの保守点検（4月・11月～専門業者）
- ・受水槽・貯湯槽の清掃保守及び水質検査（2月～専門業者）
- ・機械警備の保守点検（毎月～専門業者）
- ・浴槽配管洗浄（8月～専門業者）

3. 施設内の清掃・美化

居住環境の清潔保持と施設内感染の予防に努めた。

- ・館内床美装（食堂：年4回その他廊下等：年2回）
- ・布団丸洗い及び乾燥殺菌（丸洗い10月、乾燥4月）
- ・シーツ・ホーフの交換（月2回）
- ・居室内カーペット部分（汚損箇所）貼り替え（年1回）
- ・月例清掃（毎月～職員と利用者様の協働清掃）
- ・館内除菌（新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルス対策）の実施（毎日～職員が実施）

<別表 1>

入所状況

(令和7年3月31日現在)

入退所状況調

(人)

月	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	平均
月初措置人員数	75	75	77	74	73	72	70	74	73	76	77	76	74.3
	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(3)	
自由契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	75	75	77	74	73	72	70	74	73	76	77	76	74.3

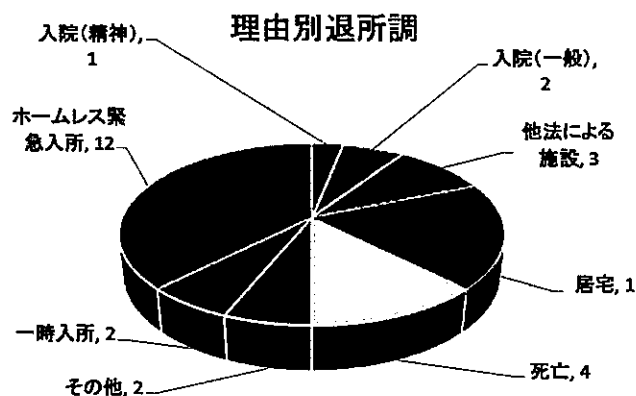
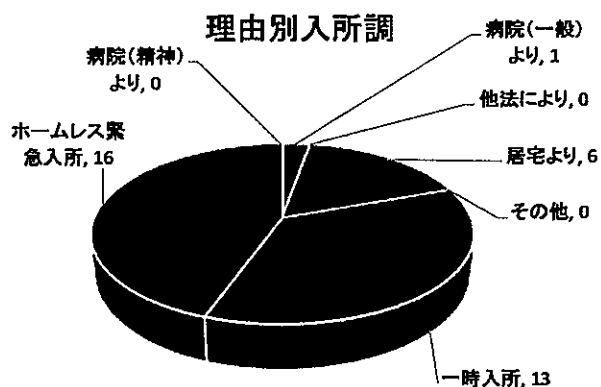
※()はホームレス緊急入所による措置人員数を再掲

(人)

月		R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	合 計
入 所	病院(精神)より													
	病院(一般)より			1										1
	他法により													
	居宅より	2	2					1	1					6
	その他													
	一時入所(一般入所前の体験的入所は除く)				1	2		4	2	3			1	13
	ホームレス緊急入所	2	2	2	1		1	2	1	1	1	1	2	16
	合計	4	4	3	2	2	1	7	4	4	1	1	3	36

(人)

		月	R6.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R7.1	2	3	合 計
退 所	入院(精神)								1						1
	入院(一般)			2											2
	他法による施設	1								1			1		3
	居宅						1	1			1	1		2	6
	死亡			2	1							1			4
	その他				1			1							2
	一時入所(一般入所前の体験的入所は除く)			1					1						2
	ホームレス緊急入所	2	1	1	1	2	1	1	2				1		12
	合計	3	1	6	3	3	3	3	3	1	2	2	2	2	32



年齢別調

(人)

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80以上	合 計
男	0	1	0	3	3	10	7	4	7	35
女	0	0	2	5	4	5	10	5	10	41
計	0	1	2	8	7	15	17	9	17	76

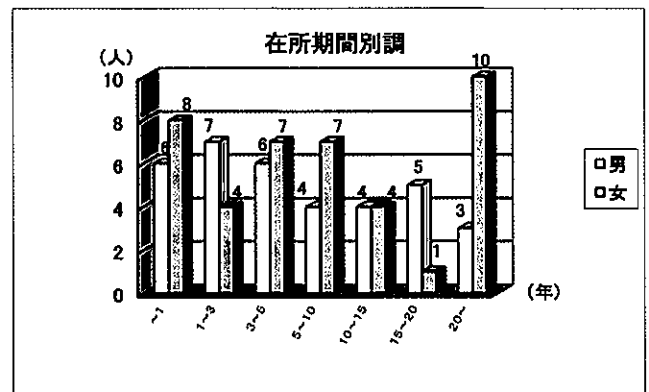
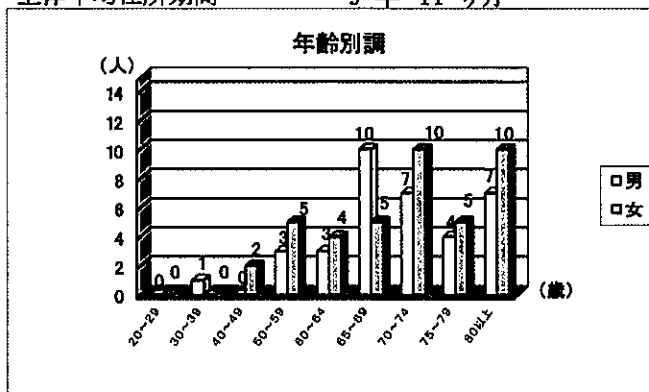
最少年齢 男 子 32 歳 最高年齢 男 子 87 歳 平均年齢 男 子 70.2 歳
 女 子 43 歳 女 子 90 歳 女 子 71.5 歳
 全体平均年齢 70.9 歳

在所期間別調

(人)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合 計
男	6	7	6	4	4	5	3	35
女	8	4	7	7	4	1	10	41
計	14	11	13	11	8	6	13	76

最短期間 男 子 0 年 0 ヶ月 最長期間 男 子 33 年 11 ヶ月
 女 子 0 年 1 ヶ月 女 子 37 年 8 ヶ月
 平均在所期間 男 子 8 年 4 ヶ月
 女 子 11 年 4 ヶ月
 全体平均在所期間 9 年 11 ヶ月

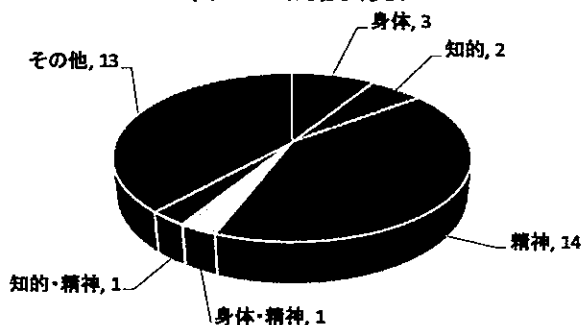


障がい別調

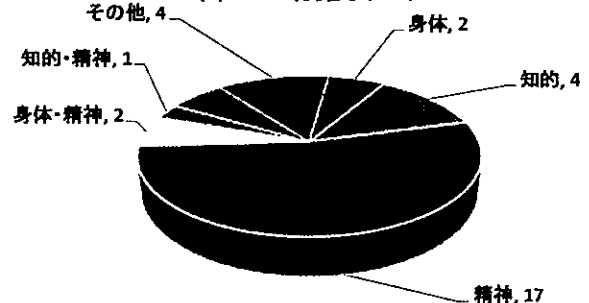
(人)

	身体	知的	精神	身体・知的	身体・精神	知的・精神	身体・知的・精神	その他	合 計
男	3	1	14	0	1	1	0	15	35
女	2	4	17	0	2	1	0	15	41
計	5	5	31	0	3	2	0	30	76

障がい別調(男)



障がい別調(女)



障害者手帳保持調

(人)

身体障害者手帳	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合 計
男	1		1	2			4
女		2		1	1		4
計	1	2	1	3	1		8

精神障害者保健福祉手帳	1 級	2 級	3 級	合 計
男		11	5	16
女	1	17	2	20
計	2	28	7	37

療 育 手 帳	A	B	B-	合 計
男		2		2
女	1	4		5
計	1	6		7

ADL状況調

(人)

区 分	歩 行				食 事			排 泄			入 浴			着 衣		
	自力歩行	補助具使用	車椅子使用	歩行不能	自分で可能	一部介助	全介助	自分で可能	一部介助	全介助	自分で可能	一部介助	全介助	自分で可能	一部介助	全介助
実 数	61	11	4	4	55	21		60	15	1	45	27	4	69	7	

受給年金調

(人)

	国民年金				厚生年金			障基老厚	その他	合 計
	障害基礎	老齢基礎	障害(旧法)	老齢(旧法)	障害	老齢	遺族			
男	6	2				9			8	25
女	11	4	1			4	1		3	24
計	17	6	1			13	1		11	49

実施機関別入所人員調

(人)

各 市 別 人 員				各 振 興 局 別 人 員			
実 施 機 関 名	男	女	計	実 施 機 関 名	男	女	計
札 幌 市	21	29	50	空 知 総 合 振 興 局	2	1	3
名 寄 市		1	1	根 室 振 興 局	1		1
北 見 市	3		3	オホーツク総合振興局	1		1
三 笠 市	1	3	4	十勝総合振興局	1		1
根 室 市		1	1	後志総合振興局		1	1
北 広 島 市		1	1	岩 手 県	1		1
岩 見 沢 市	1	1	2				
砂 川 市	1		1				
登 別 市		1	1				
苫 小 牧 市	1	1	2	私 的 契 約			
小 樽 市	1		1				
歌 志 内 市		1	1				
小 計	29	39	68	小 計	6	2	8
				合 計	35	41	76

<別表2>

職 員 配 置 状 況

令和6年4月1日現在

職 種		施設長	事務員	主任指導員	指導員	介護職員	介護員	看護師	栄養士	調理員等	(ほ 巡視員等) か	医師	合計
定 数		1	2	1		13	1	1	1	4(1)		(1)	24(2)
現 在 員	正規職員	1	2	1	1	12	1	2	1				21
	契約職員					3					7		10
	嘱 託											2	2

※調理部門を外部委託